

がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン 改訂のポイント





1 CQの見直し

初版の発刊後に広く有効性が認識されたCQや、今後臨床試験が行われる見込みが少ないCQをGPS（Good Practice Statement）として扱うこととし、かわりに免疫チェックポイント阻害薬を中心に新たなCQを設定した。

最終的に計CQ11, GPS4, 総説15となった。



2 総説の組み込み

がん診療に関連した腎障害は、腫瘍学（Oncology）腎臓病学とNephrology）を横断する新たな学術領域（OncoNephrology）にて扱われている。

さらに、がん薬物治療を主題とする本ガイドラインは、薬学領域にもまたがる、様々な専門医療の横串的な機能が求められる。

これらを考慮し、異なる分野に共通した背景疑問を明確にする目的で、改定版では「総説」として、背景疑問を記載することとした。

3 がん診療の時系列に沿った構成の採用

実用性を考慮して、癌診療の時系列に沿った構成を採用し

第1章 がん薬物療法患者の腎機能評価（治療前）

第2章 腎機能障害患者に対するがん薬物療法の適応と投与方法（治療前）

第3章 がん薬物療法による腎障害への対策（治療中）

第4章 がん薬物療法後（がんサバイバー）のCKD治療（治療後）

という構成を採用した。

第4章は2016年版には含まれていない新しい内容である。

がんサバイバーの長期予後が改善する中、臨床的意義が大きいと考えた。

CQ (Clinical Question) を見直し、Q&Aで記載した

初版から引継いだQ&Aはエビデンスを再評価し改訂

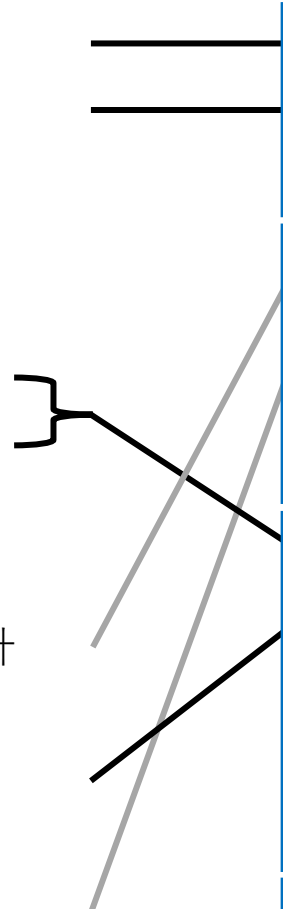
新たな前景疑問に対しては新たなQ&Aを設定 (赤太字)

2016年版

- CQ 1: がん患者に対するeGFR評価
- CQ 2: がん患者AKIのバイオマーカー
- CQ 3: CKD患者への抗がん薬減量
- CQ 4: CDDP-AKIのリスク因子評価
- CQ 5: CDDPの分割投与
- CQ 6: CDDP中の補液
- CQ 7: CDDP中のshort hydration
- CQ 8: CDDP中の利尿薬
- CQ 9: CDDP中のMg補充
- CQ10: 腎機能に応じたCBDCA投与量設計
- CQ11: MTX投与中の尿アルカリ化
- CQ12: 血管新生阻害薬中の蛋白尿
- CQ13: BP製剤、抗RANKL抗体の減量
- CQ14: CDDP除去目的の透析
- CQ15: TLSに対するラスブリカーゼ
- CQ16: 抗がん薬TMAに対する血漿交換

2022年版

- CQ1: がん患者に対するeGFR評価
- CQ2: がん患者AKIのバイオマーカー
- CQ3:水腎症に対するステント・腎瘻造設**
- GPS1:腎機能に応じたCBDCA投与量設計
- GPS2: CDDP除去目的の透析
- CQ4:透析患者に対するICI**
- CQ5:腎移植患者に対するICI**
- CQ6: CDDPの腎障害を軽減する補液
- CQ7:蛋白尿患者に対する血管新生阻害薬
- CQ8: EGFR抗体薬投与患者に対するMg補充**
- CQ9: ICIによる腎障害に対するステロイド**
- CQ10: ICIによる腎障害後のICI再投与**
- GPS3:小児CKDがんサバイバーのrhGH療法**
- GPS4:小児がんサバイバーの腎代替療法選択**
- CQ11: がんサバイバーの腎性貧血に対するESA治療**



第1章

がん薬物療法患者の腎機能評価

第2章

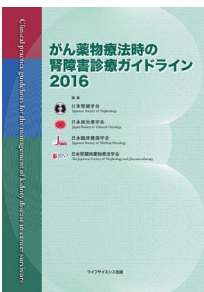
腎機能障害患者に対するがん薬物療法の適応と投与方法

第3章

がん薬物療法による腎障害への対策

第4章

がんサバイバーのCKD治療



15の総説を新たに設定した

がん・薬・腎領域で共有すべき基礎的知識を記載
初版時に検討されたCQ (Q&A) も総説に組み込み (黒矢印)

2016年版

- CQ 1: がん患者に対するeGFR評価
- CQ 2: がん患者AKIのバイオマーカー
- CQ 3: CKD患者への抗がん薬減量
- CQ 4: CDDP-AKIのリスク因子評価
- CQ 5: CDDPの分割投与
- CQ 6: CDDP中の補液
- CQ 7: CDDP中のshort hydration
- CQ 8: CDDP中の利尿薬
- CQ 9: CDDP中のMg補充
- CQ10: 腎機能に応じたCBDCA投与量設計
- CQ11: MTX投与中の尿アルカリ化
- CQ12: 血管新生阻害薬中の蛋白尿
- CQ13: BP製剤、抗RANKL抗体の減量
- CQ14: CDDP除去目的の透析
- CQ15: TLSに対するラスブリカーゼ
- CQ16: 抗がん薬TMAに対する血漿交換

2022年版

- 総説 1 : 薬剤使用前にみられる腎障害
- 総説 2 : がん治療薬使用前の腎機能評価
- 総説 3 : がん治療薬使用後の腎障害
- 総説 4 : がん治療薬使用後の腎障害
- 総説 5 : がん治療薬使用後の腎障害リスク因子
- 総説 6 : CKD患者に用量設定が必要な薬剤
- 総説 7 : 透析患者に対するがん薬物療法
- 総説 8 : 腎移植患者に対するがん薬物療法
- 総説 9 : 殺細胞薬による腎障害への対策
CDDP分割投与、利尿薬投与、Mg投与
MTX療法に対する尿アルカリ化
ラスブリカーゼ、血漿交換
- 総説10 : 血管新生阻害薬による腎障害対策
- 総説11 : 蛋白尿を有する患者へのがん薬物療法
- 総説12 : 免疫チェックポイント阻害薬による腎障害対策
- 総説13 : 成人がんサバイバーにおけるCKD
- 総説14 : 小児がんサバイバーにおけるCKD
- 総説15 : がんサバイバーのCKD治療や注意点

第1章

がん薬物療法患者の腎機能評価

第2章

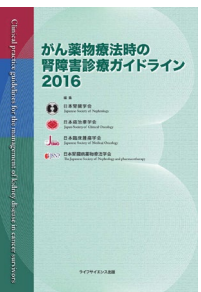
腎機能障害患者に対するがん薬物療法の適応と投与方法

第3章

がん薬物療法による腎障害への対策

第4章

がんサバイバーのCKD治療



がん薬物治療の診療時系列に沿った構成を採用した

新たな総説・CQを、がん薬物の治療前・治療中・治療後に沿って章立て



2022年版 総説

2022年版 CQ (Q&A)

総説1：薬剤使用前にみられる腎障害 総説2：がん治療薬使用前の腎機能評価 総説3：がん治療薬使用後の腎障害 総説4：がん治療薬使用後の腎障害	治療開始前	第1章 腎機能評価	CQ1: がん患者に対するeGFR評価 CQ2: がん患者AKIのバイオマーカー CQ3: 水腎症に対するステント・腎瘻造設
総説5：がん治療薬使用後の腎障害リスク因子 総説6：CKD患者に用量設定が必要な薬剤 総説7：透析患者に対するがん薬物療法 総説8：腎移植患者に対するがん薬物療法		第2章 腎機能障害患者に対するがん薬物療法	GPS1: 腎機能に応じたCBDCA投与量設計 GPS2: CDDP除去目的の透析 CQ4: 透析患者に対するICI CQ5: 腎移植患者に対するICI
総説9：殺細胞薬による腎障害への対策 CDDP分割投与、利尿薬投与、Mg投与 MTX療法に対する尿アルカリ化 ラスブリカーゼ、血漿交換 総説10：血管新生阻害薬による腎障害対策 総説11：蛋白尿を有する患者へのがん薬物療法 総説12：免疫チェックポイント阻害薬の腎障害対策	治療中	第3章 がん薬物療法による腎障害対策	CQ6: CDDPの腎障害を軽減する補液 CQ7: 蛋白尿患者に対する血管新生阻害薬 CQ8: EGFR抗体薬投与患者に対するMg補充 CQ9: ICIによる腎障害に対するステロイド CQ10: ICIによる腎障害後のICI再投与
総説13：成人がんサバイバーにおけるCKD 総説14：小児がんサバイバーにおけるCKD 総説15：がんサバイバーのCKD治療や注意点		治療後	第4章 がんサバイバーのCKD治療